

IGMセミナー

2022年 1月13日(木) 18:30~(オンライン)

Zoom: <https://zoom.us/j/97137314528>

ミーティングID: 971 3731 4528

骨免疫と自己免疫

東京大学大学院医学系研究科 免疫学講座

教授 高柳 広 先生



【要旨】

自己免疫疾患である関節リウマチの研究から、骨と免疫の相互作用の研究が発展した(1, 2)。免疫細胞-滑膜細胞-骨の細胞の三者の相互作用による関節リウマチの病態について概説する。破骨細胞制御に限らないRANKLの多様な作用についても最新の知見を紹介する(3, 4, 5)。また、胸腺における自己免疫寛容の成立に必要な、末梢抗原誘導の分子機構について、いかにして「広く浅い転写制御」がなされているかに焦点をあてて述べる(6, 7, 8)。

【参考文献】

- (1) Takayanagi H., *Proc Jpn Acad Ser B.*, **96**, 159-169 (2020)
- (2) Tsukasaki, M. & Takayanagi, H., *Nat. Rev. Immunol.*, **19**, 626-642 (2019)
- (3) Tsukasaki M. et al., *Nat Metab.*, **2**, 1382-1390 (2020)
- (4) Asano T et al., *Nat Metab.*, **1**, 878-875 (2019)
- (5) Nagashima et al, *Nat Immunol.*, **18**, 675-682 (2017)
- (6) Nitta T et al., *Nat Immunol.*, **21**, 1172-1180 (2020)
- (7) Tomofuji Y et al., *Nat Immunol.*, **21**, 892-901 (2020)
- (8) Takaba H et al., *Cell*, **163**, 975-987 (2015)

世話人: 北海道大学遺伝子病制御研究所感染癌研究センター 村上 正晃 (内線5121)

共催: 国立大学共同利用・共同研究拠点事業、

機能強化事業「新たな学際領域を生み出す異分野融合研究拠点をコアにした若手研究者育成」